

茨城PTLS講習会

茨城県立中央病院 救急部長兼総合診療科部長 **関 義元****PTLSとは?** (PTLS ウェブサイト <http://www.ptls.jp/information.html> より引用 (2016.8.4 参照))

PTLSは、適切な診療をしていれば救命できたと思われる「防ぎ得た外傷死亡 (Preventable Trauma Death)」を最小限にする目的で策定された米国の外傷診療コース (ATLS; Advanced Trauma Life Support) を基礎に日本で開発された外傷診療教育コースです。1997年より全国各地で開催され、2011年には受講者医師数が延べ5,000人を超えています。

また、このPTLSをひな形にして日本救急医学会、日本外傷学会により JATEC (Japan advanced Trauma Evaluation and Care) が開発され、標準化教育プログラムとして全国に普及され浸透しつつあります。

医師だけでなく、チーム医療として働く看護師を対象として「看護師コース」も同時に開催されています (一部地域を除く)。

茨城での取り組み

私自身が、千葉県にある船橋市立医療センターでの初期研修中に、PTLSを受講しました。私のメンターである箕輪良行先生 (JCHO東京高輪病院総合診療研修顧問) がPTLSを開発したということもあり、私の出身地である茨城県に戻ってきて5年目の2008年に茨城県内で初めてPTLSを開催、その後、年1回の開催を継続し、今年で9年目になりました。当初は、ほぼ個人で講習会運営をしていたので大変でしたが、現在は、茨城県医師確保対策室の全面的なサポートを得、安定して開催できるようになりました。これまでに、医師コースは224名 (2008-2016年)、看護師コースは108名 (2012-2016年) が受講しています。



総合的診療を学ぶ特訓ゼミ 第3シリーズ開催のお知らせ

第3シリーズ

○臨床推論8番勝負と題し、外国人講師を含む実力派講師による集中ゼミ 2日間

日 程 平成 28 年 11 月 12 日 (土) ~ 13 日 (日)

場 所 オーシャンビュー大洗
(茨城県東茨城郡大洗町東光台 8234-1)

対 象 全国の若手医師・医学生

定 員 80 名

参加費 医師・医学生ともに 8,000 円
※内規に準じた、交通費を受付時に支給いたします。

募集期間 平成 28 年 10 月 28 日 (金) まで

お申し込み

茨城県総合的診療を学ぶ特訓ゼミ
専用ホームページからお申し込みください。
<http://jimukyoku.co.jp/ibaraki-tokkun/>

総合監修 **徳田 安春 氏**

茨城県地域医療支援センター特別講師 (JCHO本部顧問)

総合診療のハイグレードな臨床能力を身につけることができれば、地域・へき地・離島のみならず、都市部の救急・夜間・災害・グローバルシーンなどのさまざまな医療ニーズに適切に対応することができます。この特訓ゼミ・シリーズでは、茨城県内に加えて国内外から卓越した講師陣を揃え、国内最大規模のスケールで参加者を募り、ケーススタディ方式で学習を進めていきます。このゼミに参加することにより、現代の日本で最も必要とされている全人医療を実践することができるマインドとスキルを習得することができます。さあ、みなさんもぜひこのゼミに参加して、日本の医療シーンにジェネラルのイノベーションを展開していきましょう!

お問い合わせ

【総合的診療を学ぶ特訓ゼミ】運営受託会社 株式会社日本経済広告社 TEL : 03-6869-0801 E-mail : ibaraki-tokkun@jimukyoku.co.jp

「スポーツの環境を変えてくれるような докторがたくさん増えて欲しい」

鹿島アントラーズのチームドクターを核としたスポーツ整形外科クリニック「アントラーズスポーツクリニック」のチーフドクター山藤 崇先生に、スポーツ整形外科最前線での仕事や地域との関わりについてお話を伺いました。

…クリニック開設のいきさつについてお聞かせください。

当院はアントラーズのチームドクターが持つ、スポーツ医学のノウハウを地域医療の向上と発展のために還元することを目的として、2015年8月に開設しました。開院までは3年構想で、私は立ち上げから携わらせてもらい、現在はチーフドクターをしています。

●世界最上位クラスの3.0テスラMRIを導入して診断。

…診療科の特色はどのようなことですか？

私はアントラーズのチームドクターなので、選手がけがをしたら、それを診断して、リハビリをして復帰させるということをしています。そのアントラーズのスポーツ整形外科プログラムを、スポーツをやっている方や地元の学生など、一般の方々にも提供しているところがうちの特色となっています。

診療科は、整形外科とリハビリテーション科があり、建物の半分はリハビリ施設です。整形外科では世界最上位クラスの3.0テスラMRIを導入しています。元々これは脳神経外科で使われるMRIなので、整形外科単科で持っているところはおそらくないと思います。レントゲンで骨の状態を見ることはできますが、筋肉や軟骨はやはりMRIの方がわかる

アントラーズスポーツクリニック

チーフドクター 山藤 崇



ので、無理を言って入れてもらいました。最高のMRIで検査をすることで、他ではわからないと言われたことがわかることがありますし、正確な診断があれば、リハビリのスケジュールも立てやすいので有効利用させてもらっています。

…一般の方の診断にもMRIは活用されるのですか？

アントラーズのトップ選手も一般の方も同じ3.0テスラMRIで診断するので、診断の精度は非常に高いと思います。しっかり診断して、リハビリをして、戻る場所がスポーツのピッチなのか社会復帰なのかというだけで、同じメソッド、同じやり方でやらせてもらっています。目指すところは違っても体は変わりませんから、「運動をして元気になる」ということがこのクリニックの特色です。薬を出して終わりではなく、元々あった機能を取り戻し、あわよくば元々よりもいい体にして社会に戻してあげたい、スポーツに戻してあげたいという気持ちで取り組んでいます。特にスポーツ選手の場合は復帰が1日、2日変わること、チー

ムの成績に影響が出ます。ここはスタジアムに併設されているので、チームの選手たちがダイレクトに使えるし、多分日本には他にそういう施設はないので、アントラーズにとっても、大きなプラスだと思います。

●それぞれの能力に対応して一人ひとりオーダーメイドで治療。

…鹿行地区の医療事情と、クリニックが開設されてからの変化は？

スポーツに特色を持った整形外科というのはこの地域にあまりないので、水戸や土浦や東京に行って診てもらっていた方が多かったのですが、距離も遠いし、リハビリテーションでは通えなかったのです。やはり地元にあって診断してもらえて、復帰まで診てもらえるというのは、地元の子達がスポーツをやる環境として少しは貢献できているのかなと思います。部活で100%の力を発揮できる身体に戻してあげたいし、将来のある選手は無理をしてはいけけないので、先を見据えてゆっくり治療をしたりとか、それぞれの能力に対応して一人ひとりオーダーメイドで治療しています。

…クリニックを地域でどういう存在にしたいですか？

地域に愛されるクラブというのが、元々アントラーズが持っている目標なので、クリニックを通じて“アントラーズ愛”みたいなものがあれば私たちは本望です。また、スタジアムは地域の災害拠点施設でもあるので、スタジアムに関わることで今後、いろいろな活動ができると思います。さらに、試合のない日のスタジアムを、リハビリの施設として使おうという準備も進めています。選手のウォーミングアップのスペースやランニングコースもあるので、そういうものをリハビリに使えるようにして、広く地域の皆さんに利用してもらえる施設にしていきたいというのが今後の展望です。そうして鹿島だけでなく、周辺地域の皆さんに来ていただけるクリニックになっていきたいですね。

●スポーツ整形外科の現場を、若手のドクターに見に来て欲しい。

…スポーツ整形外科医を目指す医師を対象に東京医科大学と連携した研修プログラムが始まり、アントラーズスポーツクリニックでも研修を受けられるようになりますが？

スポーツを実地でリハビリテーションして現場に帰するというクリニックは、実はものすごく少ないのです。土浦とか東京とか、手術をして治すところはあるのですが、実際に診断をして、選手がスポーツに復帰するところまでできる所はあまりないので、医学生の皆さんには1回見て欲しいなと思います。どうしても病院勤務になると、3カ月休めばいいんじゃないということが終わってしまうところが、3カ月治療して戻っていくところまで診ることができる。そういう我々の仕事現場を、若手のドクターが見に来てくれたらいいなと思います。

…先生のやりがいや生きがいは？

私は、サッカー選手になりたかったのですが、なれなかったのでスポーツドクターの道に進みました。生きがいは、アントラーズが勝つことだけなのです。アントラーズが地元の人に愛されていて、強くなるのが見えるから頑張れるんです。アントラーズがタイトルを取ってくれるように、選手を1日でも早くピッチに戻して、勝ち点にちょっとでも貢献したいと思っています。

…若手医師、研修医へメッセージをお願いします。

医学に関係ない若者には、好きなことをやりなさいと言いますが、医者好きなことだけでは足りない分野が出てきますから難しいですね。クリニックのチーフドクターとしての立場から言えることは、スポーツの環境を変えてくれるようなドクターがたくさん増えて欲しい。そう思っています。

病院紹介 コーナー 茨城西南医療センター病院

(茨城県猿島郡境町2190)



茨城西南医療センター病院は、茨城県厚生連（県内6病院）の中の一つです。

今年で開院70年を迎えます。

当院の特徴は、三次救急に対応する「救命救急センター」を設置し、24時間365日救急患者を受け入れ地域における救急医療の最後の砦として活動しています。

さて、当院の臨床研修の特徴については、全ての必修科目及び選択科目において、幅広い医学、臨床の基礎的知識、技能、姿勢を習得可能。なかでも救命救急センターは、三次救急のほか一次、二次救急も対象としているため、早期よりプライマリ・ケアの基本的診療能力の習得が可能。研修スケジュールとして、筑波大学附属病院でアカデミックな研修を1年間、当院でプラクティカルな研修を1年間行うということも選択できます。

更に、中核病院として、地域医療を支えている小児科や産婦人科でのアクティブな研修も可能となっています。最後に、これまでに当院で研修をした先生方に感想を伺ったところ救急をはじめ、内科、小児科、外科などの診療科や入院患者の対応など、バランスよく学べる事ができた。また、診療科間の垣根も低く、他科の先生に色々と相談できるのでより多くの事を学ぶことができた等の感想を頂いています。

是非一度見学にいらして下さい。実践型臨床実習「闘魂外来」も実施しています。

(整形外科部長 上杉 雅文・事務部 佐藤 稔)

研修医リレーエッセイ

総合病院 土浦協同病院

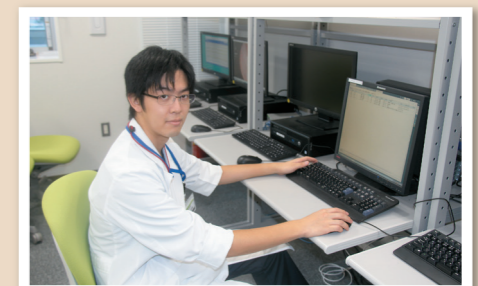
初期臨床研修医 佐川 博貴

初期臨床研修が始まってから、早いもので4ヶ月が経ちました。4月の頃は、医師として初めての臨床現場で、業務の仕方や基本手技を習得するのに精一杯の日々を送っていました。しかし、上級医やコ・メディカルの方々に支えられ、段々でできることが増え、最近では患者さんの診療により深く関われるようになってきました。

患者さんの診療では、毎日多くのことを勉強させていただいています。特に勉強になっていると感じるのは、週に約1回の救急外来での当直です。当院では、救急外来にいらっしたほぼ全ての患者さんのファーストタッチに、研修医が携わることができます。上級医の丁寧な指導のもとに診察・検査・診断・治療を行う過程では、総合的な診療能力や

救急疾患への対応力が着実に身についていると実感することができます。

医師として成長するために、今後はさらに主体的に診療にあたらなければなりません。豊富な症例と充実した指導体制があるこの素晴らしい環境で、臨床研修に励み、知識と技術の研鑽を積みしたいと思います。



平成28年度 夏のイベント開催報告

◎修学生・地域枠学生を対象にサマーセミナーを開催しました。

修学生サマーセミナー 1～2年生



病院見学の様子(水戸済生会総合病院)

日程

平成28年8月19日(金)～20日(土)

内容

- 水戸地域の概況説明
- 地域で活躍する医師の講話
- 病院見学
- 交流会
- グループディスカッション
- 笠間海軍航空隊記念館見学
- 宿泊先/いこいの村沼沼

参加者の声

- ・様々な大学の人と知り合えるので、茨城県で働くことへのモチベーションがあがりました。
- ・病院の見学や交流などができて、有意義な2日間でした。
- ・現場の先生の声は非常に参考になりました。

修学生サマーセミナー 3～4年生



グループディスカッションの様子

日程

平成28年8月17日(水)～18日(木)

内容

- 地域で活躍する医師の講話
- グループディスカッション
- 交流会
- 病院見学
- なめがたファーマーズヴィレッジ見学
- 宿泊先/ホテルニュー鹿南

参加者の声

- ・自分が将来どのような立場で医療に従事するのかの医師像を描けた。
- ・地域医療では、医師が不足しているが、その分働きがいがあると感じた。
- ・医師としてのワークライフバランスを考えさせられる機会になった。

修学生サマーセミナー 5、6年生



医療機関見学の様子(5年生)

日程

(5年生)平成28年8月9日(火)～10日(水)
(6年生)平成28年8月28日(日)

内容

- (5年生)※地域医療研修会をセミナーとして開催
- 大子町内医療機関見学/現場体験
 - 現地医師との意見交換会 ●懇親会
 - 宿泊先/リバーサイド奥久慈福寿荘
- (6年生)
- 自治医科大学県人会主催の「茨城県地域医療学術集会」に参加

参加者の声

- (5年生)
- ・地域医療の現状を知ることができ、大変勉強になった。
 - ・へき地医療の現場体験を通じて総合医としての働き方のイメージがつかめた。
- (6年生)
- ・県内の地域医療に関わる医師全体でレベルアップする雰囲気を感じることができた。

茨城県からのお知らせ

茨城県地域枠募集のご案内

応募資格

将来、茨城県の地域医療に貢献する熱意を有する者であって、次のいずれかに該当する者

(1)茨城県内の高等学校等を卒業した者 (2)茨城県内に居住する者の子

返還免除要件

大学卒業後、茨城県知事が指定する医療機関で9年間勤務すること(うち1/2以上は医師不足地域で勤務)

貸与人数(地域枠定員)

筑波大学 2名(推薦入試 2名・一般入試 4名)
東京医科大学 8名 東京医科歯科大学 2名 杏林大学 2名
北里大学 2名 帝京大学 1名 日本医科大学 2名※

※地域医療医師修学資金貸与制度枠として設置

貸与金額 月額150,000円

県への応募期間等

筑波大学(推薦入試)・東京医科大学
応募期間:平成28年9月1日(木)～10月3日(月)(当日必着)
県面接日:平成28年10月15日(土)又は10月16日(日)

東京医科歯科大学・杏林大学・北里大学・帝京大学・日本医科大学
応募期間:平成28年10月6日(木)～11月8日(火)(当日必着)
県面接日:平成28年11月19日(土)又は11月20日(日)

筑波大学(一般入試)
応募期間:平成29年1月23日(月)～2月3日(金)(当日必着)
県面接日:平成29年2月11日(土)又は2月12日(日)

茨城県内対象

応募資格

将来、茨城県の地域医療に貢献する熱意を有し茨城県知事が指定する医療機関及び診療科において医師の業務に従事しようとする者で、筑波大学出願資格を満たす者

貸与金額 月額150,000円

貸与人数(地域枠定員) 筑波大学 10名

返還免除要件

茨城県知事が指定する医療機関及び診療科で9年間勤務すること(うち1/2以上は医師不足地域で勤務)

県への応募期間等

応募期間:平成29年1月23日(月)～2月3日(金)(当日必着)
県面接日:平成29年2月11日(土)又は2月12日(日)

筑波大学(全国対象)

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内)TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp